



2026 年 5 月 15 日

各 位

会社名 株式会社 Sharing Innovations
代表者名 代表取締役社長 堤 貴寛
(コード番号: 4178 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 西田 祐
(電話番号 03-6456-2451)

Sharing Innovations、全社業務を AI 駆動型へ変革 ～ 生成 AI を前提とした業務再設計を本格展開 ～

企業の経営基盤を支える DX パートナーである株式会社 Sharing Innovations（本社：東京都渋谷区、代表取締役：堤 貴寛、以下シェアリングイノベーションズ、親会社：株式会社 Orchestra Holdings）は、生成 AI を前提とした業務プロセスの全社的な再設計を本格的に開始いたします。



背景と当社のアプローチ

生成 AI の急速な進化により、IT 業界を中心に AI が開発プロセスの中核に組み込まれる動きが加速しています。この動きはエンジニア領域の枠にとどまらず、調査・企画・資料作成といったナレッジワーク全般においても、AI の適用範囲が急速に拡大しています。

当社はこうした動向を踏まえ、昨年度より先行して生成 AI の業務適用に向けた取り組みを開始し、実プロジェクトでの実務検証を通じて実効性の検証を重ねてまいりました。

一連の検証を経て、単なるツール活用にとどまらず、生成 AI の活用を前提とした業務・開発の仕組みそのものを再設計するフェーズに移行できると判断し、本取り組みの本格展開を決定いたしました。

これまでの取り組み

本格展開に先立ち、当社では 2025 年度より以下の実務検証を段階的に実施してまいりました。

1. 開発業務における適用検証

一部エンジニアに Claude Code 等の開発用 AI ツールを実務に適用し、設計・実装・テスト工程における効果およびアウトプット品質への影響を確認しました。

2. 研修プログラムの実施

AI 駆動開発への移行を見据えた開発研修プログラムによる対象エンジニアを拡大し、社内展開を実施してきました。

3. 顧客プロジェクトへの適用

実プロジェクトにおいても AI 駆動による業務の再設計を行い、業務品質や生産性の向上を確認しております。

取り組みの全体像 ―― 「AI 駆動業務」への転換

当社は、本取り組みの全体像を「AI 駆動業務」変革と位置付けています。

これは開発領域に限定した取り組みではなく、営業・マーケティング・企画を含むあらゆる職種の業務を AI 前提で構造化し再設計する全社的な変革です。

AI 駆動業務 ―― 全職種の業務を AI 前提で構造化し再設計	
対象	主な AI 活用領域
エンジニア（AI 駆動開発）	設計・実装・テスト・レビュー工程を AI 前提で再設計
営業	提案書作成、顧客分析、商談設計 等
マーケティング・企画	市場調査、施策立案、コンテンツ作成 等
コーポレート	データ分析、レポート作成、業務設計 等
※ 上記は主要領域の例示であり、今後あらゆる職種の業務に順次拡大してまいります。	

今後の展開予定

当社は導入成果を継続的に評価しながら、社内へ本格展開してまいります。2026 年 6 月以降、プロジェクト事例の共有会や実践的な研修や勉強会によるナレッジ浸透を図り、社員が自らの業務における具体的な活用イメージを持てる環境を整備していく予定です。

本取り組みを組織能力の構造的な強化と位置づけ、ガバナンス・セキュリティ面を踏まえながら、社員の市場価値と顧客への提供価値の双方を高めてまいります。

以 上